

安城市在宅医療連携拠点推進 事業成果報告

安城市福祉部介護保険課(4月に組織改正予定)
担当者：河井文幸(PHN)、天野洋子(PHN)
Mail : kaigo@city.anjo.lg.jp
TEL : 0566-71-2226(ダイヤルイン)
住所 : 〒446-8501 安城市桜町18番23号

1

事業の目的

- 高齢者が急激に増加する2025年に向け、「医療・介護・予防・住まい・生活支援」を一体的に提供できる地域包括ケアシステムの一つとして、在宅医療提供体制の構築を目指す。

⇒在宅医療提供体制の確保に向けた具体的な方策として、平成26年1月～平成27年3月の期間で5つの事業に取り組みました。

2

5つの事業について

1. 多職種連携の課題の抽出と解決策の検討
2. 在宅医療従事者の負担軽減の支援
3. 効率的で質の高い医療提供のための多職種連携
4. 入院病床の確保及び家族の負担軽減
5. 在宅医療に関する地域住民への普及啓発活動

3

地域支援事業における 在宅医療・介護連携推進事業

- (ア) 地域の医療・介護の資源の把握
- (イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- (ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制と介護の提供体制の構築推進
- (エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
- (オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
- (カ) 医療・介護関係者の研修
- (キ) 地域住民への普及啓発
- (ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

⇒(ク)以外は【在宅医療連携拠点推進事業】の5つに対応。

4

1. 多職種連携の課題の抽出と解決策の検討

- H26.3.30多職種ネットワーク会議を開催。
- 『在宅医療の充実、地域医療における多職種連携の課題』についてグループワークで検討。
- 緊急度と重要度の高い最も優先すべき課題として『情報共有』が上がりました。

『情報共有』

- ①「患者・利用者に関する情報」
- ②「各職種相互の役割についての情報」
- ③「地域で活用可能な社会資源の情報」

これらの課題を解決する
仕組みが必要！！

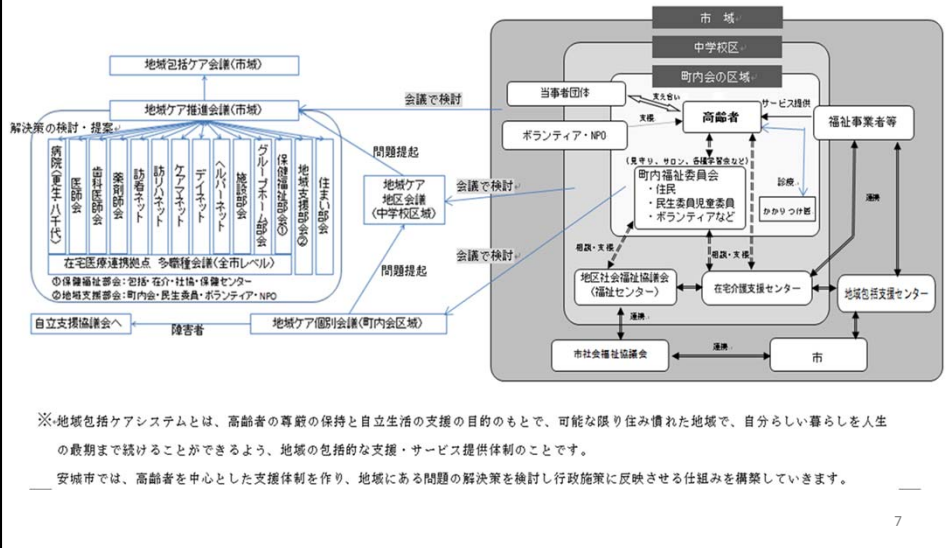
5

安城市にとっての地域包括ケアシステム、 その中の医療介護連携とは？

- 社会福祉協議会が中心となって、既に多くの町内会で福祉委員会が立ち上がり、その半数近くで地域見守り支援活動に取り組んでいた。
- 住民自身の手による、住民の為の地域包括ケアシステムにするために、『自助』と『互助』の力を最大限に引き出す。
- 安城市の地域包括ケアシステムは地域住民が主役。
- 医療や介護の専門職は、それを支える形。

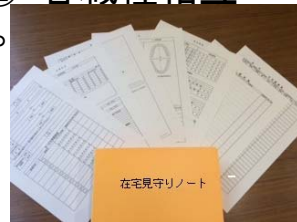
6

安城市の地域包括ケアシステム



課題解決の中心：地域ケア推進会議

- 地域ケア推進会議を毎月開催し、課題を検討。
- 多職種ネットワーク会議で課題となった①「患者・利用者に関する情報共有」、②「各職種相互の役割」についても反映して作成。
- 『在宅見守りノート』
- 残った課題だった③「地域で活用可能な社会資源の情報」を盛り込んで作成。
- 『認知症ケアパス』



医療資源の把握：医療資源マップ

- 地域の介護資源については、サービス一覧や事業所マップがあったが、医療はなし。
- 情報を得るために市内の全ての医科・歯科医療機関と調剤薬局に、H26年7月に在宅医療アンケートを実施。
- **医療資源マップ**を作成。

医療資源マップ

医科・歯科・薬局

医科

中学校区名	医療機関名	所在地
東山	生井町診療所	今井町4-8-13
	津田医院	今井町6-5-8
	松原医院	東町町4-5-21
	わたのクリニック	東町町2-504-1
	安城中央クリニック	大東町4-14
北	安城新田クリニック	新田町町31
	池邊クリニック	池邊町九田236-3
	大原診療所・桜花医院	大原町宮東22
	さかき製薬株式会社	昭和町19-35
	野村社	今池町1-14-6

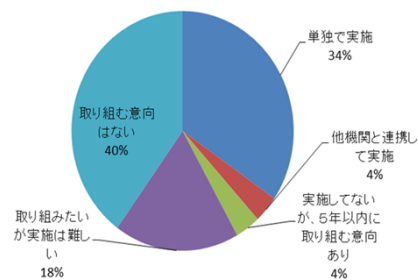
2.在宅医療従事者の負担軽減の支援

- 在宅医療に関する負担軽減に向けたニーズを把握するため、現状調査を7月に実施。
- アンケート結果は市ホームページにも掲載。

表：在宅医療アンケートの回収状況

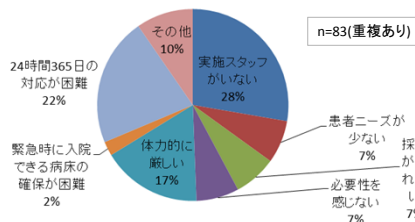
区分	発送数	回数数	回収率
病院・診療所(医科)	90	55	61.1%
病院・診療所(歯科)	78	50	64.1%
保険調剤薬局	56	46	82.1%
訪問看護ステーション	6	5	83.3%
居宅介護支援事業所	31	28	90.3%
地域包括支援センター・在宅介護支援センター	10	10	100.0%
合計	271	194	71.6%

在宅医療の実施状況と取り組む意向

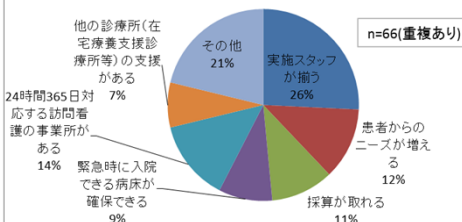


安城市の在宅医療アンケート調査結果①

在宅医療を実施していない理由



在宅医療に取り組むための条件



アンケートから見えてきた課題は・・・

- 在宅医療に取り組むための人員不足。
- 24時間365日の訪問看護などの対応体制。
- 緊急時に利用できるバックベッドの存在。

11

各専門職部会の検討や関係者への働きかけ

- 増築・増床した八千代病院の3C病棟が、H26年11月より地域包括ケア病棟へ移行。
- ⇒開業医の後方支援病床としての活用を期待。
- 平成27年4月に市内初の定期巡回・随時対応型訪問介護看護の事業所を指定(予定)。

在宅療養支援診療所数の推移

在宅療養支援診療所の種類	診療所数
従来型在宅療養支援診療所	3
強化型在宅療養支援診療所(連携型)	3
強化型在宅療養支援診療所(単独型)	0

在宅医療連携拠点推進事業の実施前(H26年1月)



在宅療養支援診療所の種類	診療所数
従来型在宅療養支援診療所	7
強化型在宅療養支援診療所(連携型)	3
強化型在宅療養支援診療所(単独型)	0

在宅医療連携拠点推進事業の実施後(H27年1月)

12

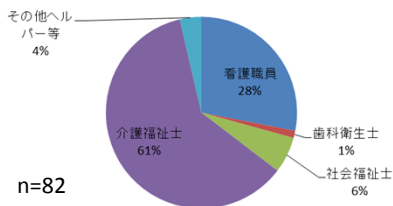
3.効率的で質の高い医療提供のための多職種連携

- H26年7月より毎月地域ケア推進会議を開催。
- 多職種ワークショップ^o研修会を今年度2回開催。
- 在宅医療・介護連携のための研修会を9回実施。
- 平成27年度からは、地域ケア推進会議にて各部会からの意見を集約して研修会を開催。

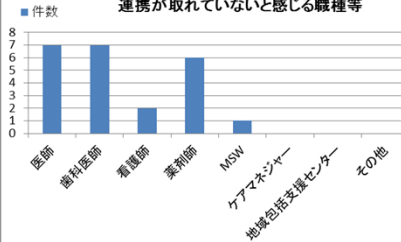
13

安城市の在宅医療アンケート調査結果②

安城市内におけるケアマネジャーの保有資格



地域包括・在宅介護支援センターが連携が取れていないと感じる職種等

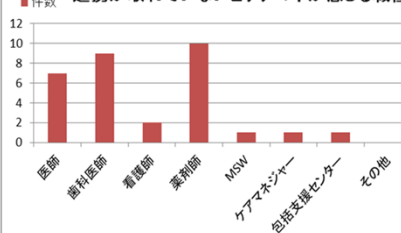


医師が参加したサービス担当者会議の経験(事業所単位)

	医療職ケアマネあり	医療職ケアマネなし	合計
開催経験あり	13	8	21
開催経験なし	1	6	7
合計	14	14	28

Fisher's exact test p=0.0768

連携が取れていないとケアマネが感じる職種



14

研修会の開催状況

回数	日時	演題	講師	参加人数
1	平成26年2月25日	地域包括ケアと今後の医療・介護のかたち	鈴木裕介氏(准教授)	62
2	平成26年6月19日	地域包括ケアシステムにおける在宅医療ネットワーク	牧靖典氏(医師)	83
3	平成26年6月24日	嚥下障害とその対処法—飲み込みやすい話—	山岡朗子氏(医師)	61
4	平成26年10月1日	適切な急変時対応のために知っておきたいこと	清水誠司氏(医師)	102
5	平成26年10月21日	口腔ケア・たん吸引	池山豊子氏(歯科衛生士)、他看護師4名	23
6	平成26年11月19日	栄養と胃瘻 介護職のために薬の知識	岡本雅彦氏(医師) 山口佳久氏(薬剤師)	65
7	平成26年11月25日	在宅歯科診療について	丹羽修氏(歯科医師)	52
8	平成26年12月11日	一宮市における在宅医療連携拠点推進事業について	井上雅樹氏(医師)	47
9	平成27年1月15日	脳血管障害後のリハビリテーション	毛利かおり氏(作業療法士)	65
合計参加人数				560

特徴的な研修会

1. 県内の先進地域から学ぶ

- 6月: 豊明市医師会(牧先生)
- 9月: 豊川市医師会(大石先生)
- 12月: 一宮市医師会(井上先生)



H26.9.20安城市在宅医療懇話会の様子

2. 実技研修

- 10月: 口腔ケア・たん吸引



16

多職種ワークショップ研修会

- 医療と介護の連携の必要性について
⇒93%が「とても感じた」と回答。

回数	日時	演題	講師	参加人数
1	平成26年3月30日	地域医療における他職種連携の問題	杉浦真氏(医師)	117
2	平成26年8月24日	在宅における患者中心医療: 多職種連携実践のためのコミュニケーション	阿部恵子氏(助教)	76
3	平成27年2月8日	もしも誤嚥性肺炎を繰り返す利用者がいたら!?~多 職種連携で取り組む口腔機能管理~	藤井航氏(講師)	97
合計参加人数				193

17

4.入院病床の確保及び家族の負担軽減

- 八千代病院でレスパイト入院の実施。
 - 八千代病院の3C病棟が、H26年11月より地域包括ケア病棟へ移行。
- ⇒開業医の後方支援病床としての活用を期待。

地域包括ケア病棟



18

5.在宅医療に関する地域住民への普及啓発活動

- 市ホームページへ情報の掲載。



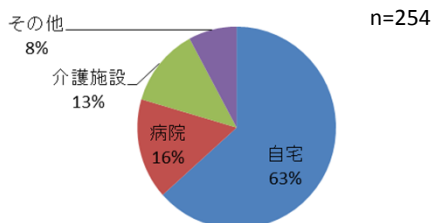
- H26年8月と11月に終末期と認知症について市民フォーラムを開催。

19

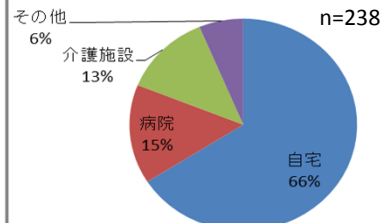
市民フォーラム

回数	日時	演題	講師	参加人数
1	平成26年8月10日	自宅で大往生～「ええ人生やった」というために～	中村伸一氏(医師)	150
2	平成26年11月9日	認知症を知る講演会	川畑信也氏(医師)、尾之内直美氏、河村聡枝氏	320
合計参加人数				470

最期を迎えたい場所(自分)



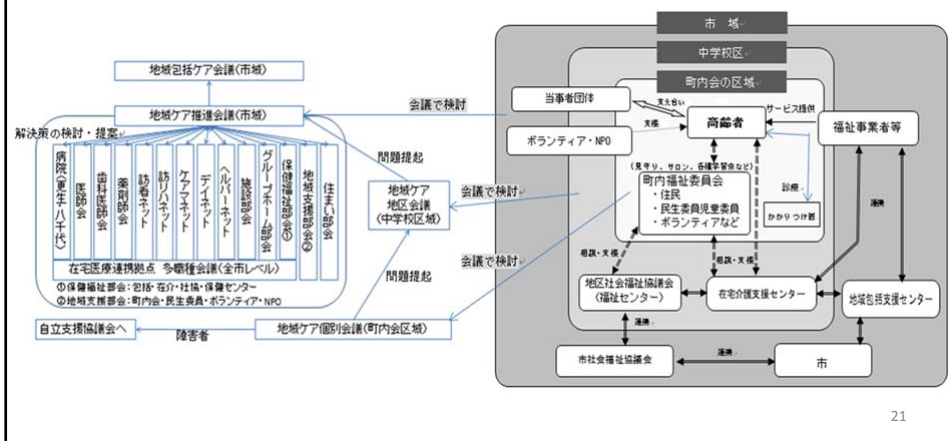
最期を迎えたい場所(家族)



20

この事業における最大の成果

- ◆ 全員参加で地域課題を解決するための、持続可能な仕組み(枠組み)を創り上げたこと。



21

残された課題①

- ◆ 地域がまだ十分に動き出していない。
- ⇒ ① 現在、2つしかない地域包括支援センターを来年度から順次、市内8中学校区全てに設置していく計画。(平成29年度には完了予定)
- ⇒ ② 地域見守り活動も、平成28年度には全町内福祉委員会で実施していく予定。
- ⇒ ③ 生活支援コーディネーターを来年度より各中学校区に配置予定。

22

残された課題②

◆在宅医療提供体制の構築や在宅医療に関する相談窓口の設置が不十分。

⇒市町村行政では、医療に対するアプローチが難しい。地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会、病院等の全面的な協力の下、取り組んでいく必要がある。

⇒平成27年4月より在宅医療サポートセンター事業が開始。

⇒情報共有のためのICT導入について検討。

23

次年度以降の取り組み

在宅医療連携拠点推進事業はこれで終了。

来年度からは、以下の事業に取り組めます。

1. 地域包括ケアモデル事業(モデル地区拡大)
 - 市民フォーラムの開催による市民への普及啓発、研修会の開催等。
2. 地域支援事業(在宅医療・介護連携推進事業)
 - 多職種ワークショップ研修会等。
3. 在宅医療サポートセンター事業(医師会)との連携
24時間365日対応可能な在宅医療提供体制の構築を支援する。

地域住民や開業医等からの在宅医療に関する相談窓口を設置。

24

来年度の研修会等の計画

日時	内容	講師	主催	備考
2015/4/9 (木)19:00～	終末期の意思決定支援	安城更生病院 神経内科 在宅診療部長 杉浦真先生	病院部会・訪看部会	
2015/5/14 (木)18:00～	リスクマネジメント・苦情・事故	安城更生病院 神経内科 医療安全管理部長 安藤哲朗先生	訪看部会・施設部会	
6月				
7月				
8月	成年後見について		保健福祉部会	
9月	在宅における薬剤管理について	安城市薬剤師会	薬剤師会部会・保健福祉部会	
10月	介護従事者の腰痛予防について		ヘルパー部会・訪リハ部会	
2015/11/7 (土)14:00～	市民向けの認知症フォーラム (ユマニチュード)	国立長寿医療研究センター 副院長 鷺見幸彦先生 同センター 看護部 副師長 膽畑敦子先生	安城市・八千代病院認知症疾患医療センター	
12月	在宅歯科診療と口腔ケア		歯科医師会部会	
1月	ターミナルケア		ケアマネ部会	
2月				
3月	虐待について		保健福祉部会	
時期未定	多職種ワークショップ (認知症事例検討)	八千代病院認知症疾患医療センター センター長 川畑信也先生	安城市・八千代病院認知症疾患医療センター・グループホーム部会	
	電子連絡帳について	名古屋大学医学部付属病院先端医療・臨床研究支援センター 副センター長 水野正明教授	医師会部会	
	在宅看取りと診診連携について	安城市医師会会員	医師会部会・病院部会	主催部会内で開催
	歯科医師の在宅歯科診療		歯科医師会部会	主催部会内で開催
	市民向けの終末期フォーラム		安城市	25

ご清聴ありがとうございました。

Thank you very much
for your kind attention.

